

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)		その他小売 [ショッピングセンター]	販売量の動き	・郊外大型店、市内小型店共に売上は好調である。特に冬物衣料や住まいの防寒対策用品、暖房器具を中心に、販売量や単価共に好調である。台風やしけの影響によって葉物野菜や鮮魚類の相場高が続いているが、食品売上は前年を維持できている。ケーキやおせちの事前予約も販売予定数に届き順調である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今年はボーナスが前年より多く出ており、客の財布のひもが緩み、忘年会は前年より入出が多く盛況である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・年末商材の動きが非常に良く、販売点数が増えている。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・クリスマス関連の季節商材が予想より売れている。
		衣料品専門店（店舗運営）	単価の動き	・天候の影響によって、冬物商材の売行きが好調である。セール前の買い控えが、例年に比べて余りみられない。定価品の販売が増えたことで、客単価が伸びている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・目立って売行きが良い商品はないものの、全体的に販売量が前年よりも良くなっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・当店では、複数のなじみ客が病気であったり他界したりと、12月としては最悪の状況である。例年の7～8割の売上である。一方で、居酒屋は忙しく、当店と同業態の店はやはり状態が悪い。2極化がみられる。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・忘年会は例年並みの予約状況であったが、昼食の募集团体客が例年を大幅に上回り、売上高は前年比で15%ほど増えている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上100%、宿泊人数102%、宿泊単価95%である。Web募集による企画旅行が好調で、宿泊者全体に占める個人客の割合は50%と前年を大きく上回っている。また、宿泊部門の単価マイナス分については婚礼部門でカバーできている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー利用回数と売上が、前年度よりアップしている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・新サービスのスタートと年末の商戦期が重なり、通信事業と放送サービス共に新規契約獲得数が増えている。
		美容室（経営者）	それ以外	・1万円以上のヘアケア商品や3万円以上のドライヤーの売行きが好調である。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・土地の価格が上昇し、それに伴って客の動きが活発化しているようである。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注数は上昇しているが、1戸当たりの金額が伸び悩んでいる。
		住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・例年に比べて、年末の来客数が落ちていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・月末に顧客セールが始まり、アウターを中心に動きがある。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・高級衣料や高級時計、宝石などの来客数は増えているようだが、売上はさほど変化がないとのことである。良いものを長く使う意識が高まっているのかもかもしれないが、その一方で、相変わらず量販店と価格を比較する客の数も増えている。
		一般小売店[精肉]（店長）	来客数の動き	・来客数は前年と変わらない状態で推移している。
		一般小売店[事務用品]（店員）	お客様の様子	・年末セールの目標来客数は達成したが、安価な商品購入や買い控えの影響で売上と利益共に未達となっている。
		一般小売店[鮮魚]（役員）	販売量の動き	・11月の中盤以降、しけが続いて冬の目玉であるカニの入荷がかなり減っている。そのため、来客数は依然として多いものの、売上に結び付かない。温泉や料理店でもカニをメニューから外す動きが出てきているので、更に売上が伸びなくなっている。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・クリスマス需要の繁忙日である中旬の日曜日に積雪が30センチを超え、来客数、売上高共に大幅減となった。後半は天候回復によりばん回したものの、12月全体の売上高は前年から微減の見込みである。マフラーや手袋などの防寒用品は好調に推移している。	

百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・付加価値が高い化粧品や食品は好調だが、ミセス中間層を対象とする婦人服はバーゲンセール待ちが顕著である。節約志向がここにきて強く感じられる。
スーパー（店長）	単価の動き	・全体の動きがやや悪い状態のまま、1品単価が下がり続けている。景気が上向いているようには感じられない。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・気温の変化によって好調と不調の品はあるものの、全体としては横ばいの状況である。ケーキやイチゴ、チキンなどのクリスマス向けの食材と、しめ飾りやおせち料理などの年末商材は、日並びの影響はあるものの前年並みで推移している。特に目立った傾向はみられないことから変わらないと考える。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・今月は例年より降雪が早かったため、食品では鍋物商材、衣料品では肌着や長靴などの防寒商材の売行きが活発である。
スーパー（店舗管理）	単価の動き	・天候の影響が若干あるものの、3か月前と比べて来客数は減少している。しかし、客単価は増加している。
スーパー（統括）	来客数の動き	・依然として消費者の節約志向は根強い。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・景気は回復基調にあるという報道と現場の感覚が合わないと感じて久しいが、最近分かったことは、大企業と中小零細企業の格差が大きく開いてきているということである。
家電量販店（本部）	販売量の動き	・気温などの季節要因を除けば、前年から販売量は横ばいである。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・例年のこの時期は春先の先行予約が多い月だが、今年は予約数が少なく、余りよい状況とはいえない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・大きな変動はないものの、降雪などの影響もあって来客数が伸びない。
自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・今月は降雪が早まったことで冬用品の動きが良かったが、タイヤ販売は11月でピークが終了した。例年は積雪後のタイヤ交換もあるが、長期使用の客が多くなり、できるだけ支出を抑えるためにタイヤ交換を諦める客もいる。また、低価格の商品を選択する客が多くみられる。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・酒を納入している店では、忘年会などで例年どおりということである。当店はこの景気の悪さに慣れてしまっている。お歳暮用の商品準備についても、少ない仕入れで残り残らないようにして、それなりにうまくやっている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・最もボリュームのある企業忘年会は例年並みに受注できているが、個人利用客は昼も夜も例年の95%ほどで苦戦している。
都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・宿泊部門は、インバウンドと国内団体客に若干の減少がみられる。レストラン部門と宴会部門は、例年と同様の予約状況にある。全体的に景気動向は変わらないと考える。
旅行代理店（所長）	販売量の動き	・国内、海外向け共に、年末年始の旅行受注額が、前年に比べて大きな変化はみられない。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・本来ならボーナス支給時期で多くの販売が見込める時期である。しかし、販売商材が前年度より多いにもかかわらず、販売台数が伸びない。
通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約獲得件数は、今年度上半期が低迷していたものの、下半期に入って好調に推移しており、12月も同様の動きとなっている。
テーマパーク（役員）	来客数の動き	・北陸新幹線開業から3年目ということもあり、ここ3か月間の来客数は、前年比で10%前後のマイナスとなって推移している。
その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・大人の会員数の動きが良くない。子供の冬休み特別教室は例年どおりの集客である。
商店街（代表者）	競争相手の様子	・食料品や飲食店は例年並みのようだが、衣料品店の売上不振が目立つ。大型小売店でも年明けのバーゲンセールを前倒しで実施しているような状況であり、不振であることがうかがえる。
一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・来客数は減っているが、販売量の減少の方が大きく目立っている。

	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・ 月初からロングランの優待会を実施しているが、来客数が思うようには伸びず苦戦している。中旬から本格的に寒くなり、ようやく予算達成ペースに戻ったが、例年に比べクリスマスギフト需要が少なく、1品単価も下がっている。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ 客単価は3%ほど上昇しているが、来客数が10%近くまで大きく下落している。
	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・ 例年よりも積雪の時期が早く、来客数は落ち込んでいる。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・ 12月の販売量は前年同月比71%の見込みである。3か月前の実績が前年同月比99%であったので、3か月前との比較で下向きである。
	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・ 年末独特の需要もなく、来客数は減少傾向となっている。
	その他小売【ショッピングセンター】（統括）	来客数の動き	・ 日並びの影響もあるが、シネマが復調しているなか期待作は不発になり、来客数が前年を割り込んでいる。衣料品についても引き続き苦戦が続いている。また、ギフトシーズンであるのにギフト向けの高額品の動かない専門店もあり、商圏内における競合店舗との客の奪い合いの影響は徐々に大きくなっている。
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・ 地元客も観光客も、12月は来客数の動きが悪い。
	一般レストラン（統括）	それ以外	・ 各企業が最高益となる情報を耳にするが、外食関連の取引先にそのような企業は少ない。外食産業や運送業など人手不足の業界は、求人活動などで様々な経費が増加しており、利益減少が続いている。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・ クリスマスケーキやおせち料理の売上が前年より減少している。一方で、仕入価格はイチゴが前年の2倍以上、イクラも2倍と高騰しており、収益を圧迫している。宿泊売上は前年並みであるものの、宿泊単価は下がっている。また、レストランの個人利用が減っており、宴会利用では単価が低い。
	x	-	-
		*	*
企業動向関連	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ ファッション衣料は依然として厳しいが、実用衣料は安定している。また、非衣料分野でも生産状況が安定している。
(北陸)	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 現在の受注状況を見ると、アウトドア向け用途の輸出で動きがある。前年同期の受注量を、大幅ではないが上回っている。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・ 新設住宅着工戸数は、前年同期比で減少傾向が続いている。新築住宅関連の売上は伸び悩んでいるが、既存住宅のリフォームや商業施設など非住宅分野は堅調である。また、車両関連も比較的堅調に推移している。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ マシニングセンターでは、国内の受注が大きく伸びている。また、更に最先端の高性能加工機械では、欧米、国内共に受注が伸びている。
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・ 工事発注量は増加傾向にあるが、人手不足によって施工能力が限界となり、受注困難な状況が起きている。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・ 運賃の値上げが順調に推移し、物量も前年をクリアする状況のため、利益を確保できている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・ 年末の時期には、赤字対応や越年のため後ろ向きな資金の申出が通常あるものだが、今年はほとんどない。業種を問わず好調な企業が多く、投資や増加運転資金に関連する前向きな申出が多い。自前で投資資金を用意するようなキャッシュリッチな企業も多い。
	司法書士	取引先の様子	・ 土木工事の関連業者から、北陸新幹線延伸工事で忙しいという話がよく出る。
	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・ コンビニエンストア向けの商品を中心に、受注は引き続き好調である。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 受注量は順調に推移している。
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・ 得意先である企業の売上が、最近はそこそこ伸びているようである。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 同業者によると、購入者が段々といなくなってきたことと、一般客からの問い合わせがかなり減っているという話が多い。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 公共工事は過不足なく施工できているが、民間工事の受注量が減ってきている。

	x	-	-	-
雇用 関連 (北陸)		新聞社 [求人広告] (担当者)	雇用形態の様子	・ 12月の求人広告は前年を金額、件数共に上回り、根強い人手不足感がみられる。また、徐々に正社員募集の比率が高まっており、春に向けて再び正社員の補充を急ぎたい企業の状況がつかえる。
		人材派遣会社 (役員)	求職者数の動き	・ IT関連の求人が減ってきている。依然として有期雇用契約の応募者が増えない。
		人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・ 企業からは依然として人手不足であるとの話を聞いている。特に、中小企業は求人募集を行っても、全く応募がない場合もあるらしい。売手市場のため、求職者のえり好みが目立っているとみられる。
		新聞社 [求人広告] (営業)	周辺企業の様子	・ 年賀挨拶広告が増加しているが、初売りなど販売広告は減っている。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 11月の新規求人数は4,101人である。前年同月比で1.0%の増加となり、ほぼ前年同月と変わらない。産業別には建設業、卸売小売業、複合サービス事業で若干の伸びを示している。また、宿泊業や飲食サービス業で大きな伸びを示しているが、それ以外はほぼ変わらない状況であり、今後も変わらないのではないかと考える。
		職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・ 求人倍率は高い状態で推移しているが、仕事は増加しても利益が少ないという事業所の声が多く、全体として変わらないと考える。
		民間職業紹介機関 (経営者)	求人数の動き	・ ここ数か月は、求人数が大きくもなく小さくもなく、一定の状態が続いている。
		学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・ 12月に入っても、求人の2次募集や追加募集の案内が前年の同時期より多くきている。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・ 求人広告1回の発行で、20件ほど掲載件数が減っている。
		x	-	-